

## 編 集 後 記

この編集後記を書いているのは、オリンピック開催のほぼ1ヶ月前です。本来1年前に開催される予定だった東京オリンピック2020は、COVID-19パンデミックにより今年に延期されました。しかし、それでも新型コロナ感染症は収束せず、聖火リレーは縮小、基本無観客など、非常に厳しい状況での開催となりそうです。この編集後記が出る頃は、オリンピック後半の盛り上がりの時期でしょうか。切り札とされるワクチン接種は進んでいるものの、次から次へと変異株が出現し、ワクチンの効果が常に検証される状況にあります。

ところで、「臨床神経学」への投稿はここ数年少しずつ増えてきており、ありがたいことです。多くが症例報告ですが、報告時点では不明だったことや新規の発見だったことも、その後の報告などで情報が更新され、それまでの報告も検証されることで、より確かな情報となっていくます。そのような新しい報告が日々なされなければ、検証のしようもありません。「臨床神経学」は日本語の雑誌で、若い医師の皆さんが初めて、もしくは研修期間中に作成する論

文の投稿先としては取り組みやすい雑誌だと思います。若い時期にはたくさんの症例を経験し、その中でいろいろ調べてみると、これまで報告されていない新たな知見を自分なりに発見することが結構あります。コロナ禍で出歩けなくなった分、論文執筆が進んだ先生もおられるようですが(第61巻第5号の編集後記で、園生前編集委員長が「巣籠もり執筆」と紹介されていました)、時間はあるんだけどちょっと書くのが・・・と思われた先生、是非執筆してみませんか?若い先生だけではなく、中堅の先生、もちろんベテランの先生の投稿も大歓迎です。前回の編集後記でも書きましたが、本誌のabstractはPubMedに収載されているため、それを見た海外の読者が原文をダウンロードし、TableやFigureをチェック、場合によっては翻訳ソフトで全文を読んでいる可能性があります。日本語で書いても海外の読者に読んでもらえる時代になりました。その意味で「臨床神経学」は貴重な雑誌です。世界の読者のために、情報を発信しましょう!

(新野 正明)

### 〈 編 集 委 員 〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子		
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬		
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利	櫻井 圭太	柴田 護
下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰	坪井 義夫	中嶋 秀人	新野 正明

「臨床神経学」	第61巻 第8号	2021年8月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		戸 田 達 史
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>